

有島武郎の歩み

An Abridged Chronological Table

1878(明治11)年	3月4日、父・武(たけし)、母・幸(ゆき)の長男として東京に生まれる。
1884(明治17)年	横浜英和学校入学
1887(明治20)年	学習院予備科第3年級編入学
1896(明治29)年	学習院中等科卒業後、札幌農学校予科5年級編入学
1899(明治32)年	学友・森本厚吉の影響によりキリスト教入信を決意。父母の反対にあう。父・武が、娘婿・山本直良名義で、マッカリベツ原野(現・ニセコ町)貸下を許可される。
1901(明治34)年	札幌独立基督教会入会。父・武とともに狩太(現・ニセコ町)「山本農場」を初訪問。札幌農学校本科卒業。卒業後、志願兵として1年間兵役につく。
1903(明治36)年	アメリカに留学
1907(明治40)年	前年にアメリカを出国し、ヨーロッパ各地を周遊し、帰国。両親とともに札幌および山本農場を訪問。
1908(明治41)年	東北帝国大学農科大学予科の英語教師として札幌に赴任。学内美術愛好団体・黒百合会設立や社会主義研究会に関与。山本農場を有島武郎名義(有島農場)に変更。
1909(明治42)年	遠友夜学校校長に就任。東京にて陸軍少将・神尾光臣の次女・神尾安子と結婚。
1910(明治43)年	実弟の生馬と里見淳らとともに雑誌『白樺』同人となる。札幌独立基督教会退会。『生れ出づる悩み』のモデル木田金次郎が有島農場に来訪。 主な作品:『老船長の幻覚』
1914(大正3)年	安子の結核発症にともない、東京に移居。
1916(大正5)年	妻・安子(8月)、父・武(12月)死去
1917(大正6)年	農科大学退職。以降、多くの作品を発表し、作家としての地位を文壇に確立。『有島武郎著作集』創刊。有島農場で木田金次郎と再会。 主な作品:『カインの末裔』
1918(大正7)年～ 1920(大正9)年	主な作品:『小さき者へ』『生れ出づる悩み』『或る女』、『惜しみなく愛は奪う』『一房の葡萄』『旅する心』
1922(大正11)年	思想と実生活の一元化を求め、有島農場の小作人への解放、邸宅・家財処理の意志を表明。 主な作品:『宣言一つ』『星座』 7月18日、有島農場内の弥照神社にて、土地共有による農場無償解放を宣言。 個人雑誌『泉』創刊。 主な作品:『ドモ又の死』『小作人への告別』
1923(大正12)年	6月9日、婦人公論記者・波多野秋子と軽井沢の別荘・浄月庵にて心中。 主な作品:『親子』

有島武郎とニセコ

Arishima Takeo and Niseko

有島武郎とニセコのかかわり

北海道の開発を進めるため、国有未開地への入植を奨励する「北海道国有未開地処分法」が、1897(明治30年)に施行された。有島家とニセコのかかわりは、有島武郎の父・武が、1898(明治31)年、マッカリベツ原野(現・ニセコ町)貸下を出願したことにはじまる。一度は諸事情で返地したが、翌年、娘婿・山本直良名義で再出願し、貸下許可を受ける。以降、鉄道開通などによる入植者増加により、開墾は急速に進む。1908(明治41)年、山本農場を武郎名義に改める。翌年、成耕検査に合格し、北海道庁から全地積を無償で付与されることとなる。1914(大正3)年には、旧佐村農場を買収し、第二農場とする。武郎は自身の思想から農場所有に疑問を抱いており、父の没後の1922(大正11)年、農場を小作人全員の共有として無償解放することを宣言した。それは、武郎の没する前年であった。

1924(大正13)年、有限責任狩太共生農団信用利用組合が設立され、武郎が望んだ「相互扶助」の精神によって営農されることとなる。しかし、1949(昭和24)年、占領軍による農地改革の対象となり、農団は解散し、農地はそれぞれの持ち分に従って私有地となった。後に、旧場主の恩に報いるために「有島謝恩会」が設立され、旧農場事務所に武郎や旧農場の資料を保存・展示した。その資料を継承し、設立されたのが有島記念館である。

ニセコは、武郎の作品にも登場している。小説『カインの末裔』は、狩太(現・ニセコ町)を舞台に、自然とも社会とも調和できず、本能のまま野生的に生きる農夫の姿を描いた作品である。この作品は、本格的写実小説として評価され、武郎の文壇での地位が確立することとなった。この他には、木田金次郎をモデルとした小説『生れ出づる悩み』、農場所有をめぐる父子の葛藤を描いた短編小説『親子』の舞台ともなっている。



散歩道

ニセコ駅→小説『親子』の坂→有島第一農場解放記念碑→弥照神社→吉川銀之丞顕彰碑→有島記念館(約4km・2時間程度)

ニセコ町歴史遺産マップ(有島地区周辺)

Niseko-town legacy map(Around Arishima area)

- ① 狩太共生農団入口石碑**
当時の農場事務所近くには、現在も「狩太共生農団入口」の碑が遺されています。
- ② 有島記念館**
旧小作人によって守られてきた資料と、武郎の思想を後世に伝えるため1978(昭和53)年に設立されました。
- ③ 吉川銀之丞顕彰碑**
有島農場管理人や農場解放後の「狩太共生農団」理事長として尽力した吉川銀之丞を讃えています。
- ④ 有島ポンド**
イトウを尻別川流域に繁殖させるための養殖池です。
- ⑤ 有島第一農場解放記念碑**
旧小作人が、解放を宣言した農場主への恩を後世に語り継ぐために、1924(大正13)年に建立しました。
- ⑥ 小説『親子』の坂**
有島農場を舞台にした小説『親子』に登場する坂道です。
- ⑦ 有島灌溉溝**
有島武郎は、解放後に小作人の生活が安定するよう稲作への転換を考えて、灌溉溝を整備しました。
- ⑧ 弥照神社**
1922(大正11)年、有島武郎が小作人を前にして農場解放を宣言した、歴史的な舞台です。
- ⑨ 宮山**
「弥照神社」が当初設けられていた小山。有島記念館から宮山まで川沿いに遊歩道が整備されています。
- ⑩ 旧大曲共同墓地跡**
小説『カインの末裔』の主人公が、自分の息子を埋葬した共同墓地のモデルとされる場所です。
- ⑪ 王子製紙第一発電所**
作家・畔柳二美の小説『姉妹』の舞台になった場所です。

